

夢への一歩、83歳起業

化粧品会社社長・高田綾子さん

起業した経緯を講
演する高田綾子さ
さん＝静岡市清水区

83歳で化粧品会社を立ち上げた女性がいる。静岡市駿河区の「花宝」社長、高田綾子さん(84)だ。「100歳までに自分が納得のいく化粧品を広める」と目標を定め、一日一日を大切にしながら仕事に打ち込んでいる。

子どもの頃の遊び場は美奈近くの駿河湾。夏は真っ黒に日焼けするまで遊んだ。その後、洋裁学校に通い、洋装店に勤めたが、次第に肌の黒さにコンプレックスを感じるようになった。明るい色の服を着る勇気がなく、黒、茶、紺の服ばかり着ていた。

結婚後は夫の板金工場で事務など裏方に徹していたが、32歳の時、化粧品会社の代理店を始めた。「自分の仕事で社会に認められたい」と考えたからだ。

「重屋の母ちゃんが化粧品を売るなんて笑われる」という夫の猛反対を押し切って始めた仕事。3年後には、販売組織の真支部長に昇格した。

支部長になると、従業員のやる気を引き出すことに心がけた。「私は仕事で成功して100歳の時に船で世



納得の品、100歳までに

界一周旅行するのが夢。あなたの夢は何？」と問いかけた。そして夢に向けた目標作りを話し合った。

65歳で定年退職後も友人が立ち上げた化粧品会社を手伝っていたが、83歳になって、「残りの人生、自分のやりたいことをやろう。自分が納得できる化粧品を作る」と決心。自分の化粧品会社を興した。

沖縄県のメーカーと協力して半年間の試行錯誤の後に独自ブランドを立ち上げた。「自分の子どもが生まれた時のように感動した」

起業から半年後、夫をがんで亡くし体調を崩したが、「負けるれない。夫の分まで元気に生きてやろう」と仕事に打ち込んだ。今では新潟、群馬、富山県などに特約店がでぎ広まりつつある。「100歳までは目標にまっしぐらです」(杉本慧)